大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2020年第8週(2月17日~2月23日)

今週のコメント

~インフルエンザ~ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少するも注意報超え続く」

第8週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,869例であり、前週比11.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.05、2.73、0.40、0.35、0.33である。

感染性胃腸炎は前週比13%増の995例で、泉州7.55、南河内6.69、中河内6.15、大阪市西部6.11、北河内5.26であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の538例で、堺市4.53、北河内3.52、泉州3.45である。

RSウイルス感染症は9%減の78例で、南河内1.19、泉州0.90、大阪市西部0.78であった。

咽頭結膜熱は1%減の68例で、中河内0.65、三島0.53、泉州0.50である。

水痘は55%増の65例で、中河内0.60、大阪市北部0.57、豊能0.55であった。

インフルエンザは6%減の3,249例で、定点あたり報告数は10.98である。中河内15.47、北河内15.12、大阪市北部13.95、大阪市西部13.43、堺市12.21、南河内10.75、豊能10.41であった。

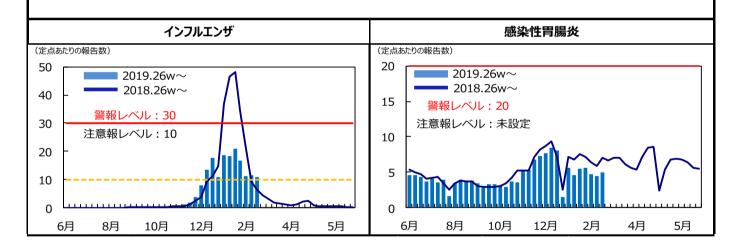


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2020年 第8週2月17日~2月23日)

第8週の 順位	第7週の 順位	感染症	2020年 第8週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2019年 第8週の 定点あたり 報告数	2020年第8週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.05	13%増	7.06	2歳_13%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.73	12%増	2.56	4歳_15%
3	3	RSウイルス感染症	0.40	9%減	0.86	1歳_37%
4	4	咽頭結膜熱	0.35	1%減	0.38	2歳_21%
5	6	水痘	0.33	55%增	0.26	8歳_20%
参考	_	インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	10.98	6%減	6.49	10-14歳_28%

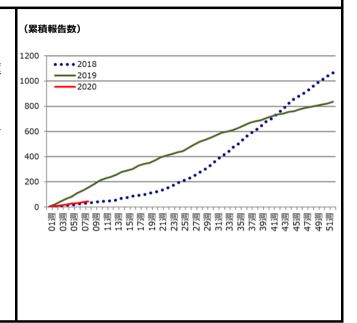
第8週のコメント

~百日咳~ 生後3か月からの予防接種が重要

全数把握感染症

百日咳

百日咳は、百日咳菌(Bordetella pertussis)による急性の気道感染症である。潜伏期は通常5~10日で、かぜ様症状で始まり(カタル期)、百日咳特有の咳が出始める(痙咳期)。新生児や乳児早期では、肺炎、脳症を合併することがある。マクロライド系抗菌薬が有効であるが、近年、薬剤耐性菌も報告されている。百日咳の予防には、ワクチン接種が有効であり、乳幼児期に計4回接種されている。2018年1月1日に小児科定点把握感染症から全数把握感染症に変更され、成人の報告数の把握が進んでいる。



<u>感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)</u> 百日咳とは(国立感染症研究所)

表 2. 大阪府全数報告数 (2020年 第8週2月17日~2月23日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】発生動向調査> 全数報告 をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症は、指定感染症として定める政令が施行された2月1日以降の集計です。)

	新至コロナプイル人際栄祉は、指定際栄祉CUCとめる以下が他们された2月1日以降の集計です。)										
	疾患名 〔〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1							1		9
	ウイルス性肝炎(B型)	1								1	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2								2	21
C 米瓦巴拉尔加宁	侵襲性肺炎球菌感染症	4				1			1	2	37
5 類感染症	梅毒	6	1			1		1		3	129
	百日咳	6			4		1		1		45
	風しん	1								1	3
結核	結核 結核 新登録患者数:145名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 52名)										
(2019年12月分) (府内累積報告数 1,636名、内 肺・喀痰塗抹陽性 638名)											

(2020年2月25日 集計分)